



申○号 「車両関係社員新入社員基礎技術教育の実施方法について」 1月28日開催 に関する説明申し入れ 団体交渉を行う！その2

3. 車両職社員新入社員基礎技術教育の現行の教育内容の変更点を明らかにすること。

【回答】今年度については、総合研修センター及び総合車両センター等において約6ヶ月間の期間に必要な基礎知識及び基礎技能等の教育を実施しているところである。

社内外の環境の変化により柔軟に対応するために、指導内容の標準化を目指した教育内容や教育箇所の見直し等も含めて、今後も必要な見直しを柔軟に行い、教育効果を高めていく考えである。

【交渉で明らかになった会社の考え方（要旨）】

- ・基礎技術教育については実施箇所を集約し、やり方が大きく変わるものではない。
- ・教育内容については、あまり使わなくなった技能は繰り返し教えることを縮小していく。
- ・普段使用している電子機器やはんだ付け作業や修繕作業については教育する時間を増やしていく。
- ・基礎技術教育を終えた後のフォローについては、配属先の車両センター独自で扱う車種も含めて、現場のOJTを活用して補完していく。
- ・各車種の共通する項目や技術は基礎技術教育で、基礎技術教育で行っていない各車両センターで扱う車種のエンジン部分や特殊なところはOJT等で補完していく。
- ・トラブルの対処方法よりも基本的な考え方をメインに教育する。

4. 総合研修センターにおける教育内容について変更するのか明らかにすること。

【回答】総合研修センターでの実施期間及び教育内容については、現時点で変更はないが、今後も必要により見直しを行っていく考えである。

【交渉で明らかになった会社の考え方（要旨）】

- ・現行の教育内容は、作業安全・車両の法令や省令に関わるものや鉄道信号なども行っている。
- ・基礎技術教育という本を活用し、よく利用する言葉も含めて、机上教育を行っている。

5. 大宮総合車両センター、郡山総合車両センターの受け持ち車種が異なることから、基礎技術教育をどのように統一していくのか明らかにすること。

【回答】総合車両センターでの教育内容のうち、配管や配線等の基礎技能の教育内容を標準化していく。現場OJT期間中に出張して教育を実施するなど柔軟に行う考えである。今後も必要により見直しを行っていく考えである。

【交渉で明らかになった会社の考え方（要旨）】

- ・技能をきちんと習得してもらうことが重要。
- ・他の箇所にある車両を学ぶ方が良いのであれば、出張して学ぶこともある。
- ・新入社員に習得して欲しい内容や見極めや知悉度の内容、何日間かけて学ぶというのは決めてあるが、具体的にどこで学ぶというのは調整している。
- ・設備やアクセスを考え、大宮と郡山の総合車両センターにした。
- ・総合車両センターと車両センターだけでなく、各本部や支社も加わり、教育体制を整えていく。
- ・自分の配属となる車両センターで学ぶべきことはきちんと学べるようにしていく。